

2. 前回の意見及びアンケート

2-1 結果の紹介

第1回協議会では、「荒川太郎右衛門地区の自然再生をどのようにするべきか。」「それを実現するために自分は何ができるのか。」の2点について討議していただきました。このときの意見は、事前に送付しました議事録の通り、総数139件(45人)でした。

また、初めてのワークショップでは一人一人のご意見が十分に反映されないと考え、アンケートの形で再度、課題ごとに分かれて検討を進めていく場合に、どういった分野の検討に参加されたいかといったご質問に対し、ご回答いただいたアンケートは37件ありました。

これら皆様の意見は多岐にわたっており、関心の高さを伺えます。そのため、とりまとめに当っては、できる限り委員の方々全ての意見が反映されるように下記のように整理しました。

1. 自然再生へ望むこと

太郎右衛門自然再生地に望むこと

- 太郎右衛門自然再生地の再生にあたって、昔の自然を取り戻したいという多くの意見がある一方で、人の利用も考えたいとの意見もありました。
- ・昔を思い出せるような自然再生を望む。
 - ・子供の頃のように自然を肌で感じることができる環境に戻したい。
 - ・市民の憩いの場、レクリエーション、学習の場としたい。
 - ・人と動物が共生できる自然に。
 - ・生物の多様性の保全が一番。
 - ・生き物があふれる場の再生。
 - ・(今いる)旧流路の希少動物の保全。
 - ・野生生物の保護を最優先すべきである。
 - ・ハンノキは自然の遷移にまかせる。
 - ・ここにしかない上池のエキサイゼリのような植物を大切にしたい。
 - ・全国を代表する一大ピオトープの形成。
 - ・外来種対策を講じるべきである。

具体的な自然再生目標として蛇行河川の再生

- 具体的な自然再生目標として、旧流路を流水化したいという意見がありました。流水化については川本来の姿である氾濫源として再生したいとの意見もありました。
- ・1910年代の河川改修前の川を再生したい。
 - ・昔のように洪水の度に流路が動く川にしたい。
 - ・流れる川にしたい。
 - ・河川を蛇行化させ、氾濫源をつくり湿地化したい。
- など、旧流路を河川にしたいという意見がありました。

具体的な自然再生目標として湿地の保全

- 蛇行河川の再生という意見の一方で、現在の湿地環境を基盤として、より良い湿地環境の保全・創出を求める意見もありました。
- ・湿地を保全し、魚やトンボの繁殖できる環境づくり。
 - ・現状の沼として保全したい。
 - ・旧流路に生育する植物に対して安易に水を入れて流水にしたくない。
- など、旧流路を湿地環境にしたいという意見がありました。

2. 土地利用

自然と人のゾーン分け

- 湿地環境の保全や流水化といった意見や環境教育、子供の遊べる川づくりといった人の利用に関する意見があり、そのような意味で、自然を創りつつ、人が川と親しめる場所を作るためのゾーン分けをしたら良いという意見がありました。

土地利用の見直し

- 多くの方が土地利用の見直しをすべきであるとの意見をいただきました。
- 多くの意見としては、モトクロス場を自然に戻して欲しいという意見がある一方、飛行場やモトクロス場を集客の場として利用してはどうかという意見もありました。

3. 自然環境学習

環境教育について

- 環境教育の場としての機能について以下のような意見がありました。
- ・学習教育に活用できるものを。
 - ・子供の意見をもっと取り入れた環境教育の場。
 - ・子供達を体験させられる環境教育の場。

4. 子供達への思い

子供の遊べる川を望む

- 荒川太郎右衛門地区で子供達が遊べるような川づくりをしたいという意見がありました。
- ・子供が遊べる川にしたい。
 - ・子供が地域に誇りを持てる川を望む。
 - ・子供の意見やアイディアを聞く場を持ちたい。

5. 地域との関わり

まちの活性化も含めた事業にすべき

- 自然再生事業から「まちの活性化」を図りたい、またはまちの活性化も含めた事業とすべきであるという意見がありました。